

米国西海岸におけるオーラルヒストリーについて Oral History in West Coast of USA

鈴木 浩¹・永田宇征²

SUZUKI Hiroshi¹・NAGATA Takayuki²

¹GE エナジー 工博・²国立科学博物館

¹GE Energy, PhD・²National Science Museum

オーラルヒストリー・技術革新・パロアルト研究センター・スタンフォード大学・シリコンバレー
Oral History・Innovation・Palo Alto Research Center・Stanford University・Silicon Valley

1. はじめに

わが国の技術革新を記録する方法として、オーラルヒストリー(以下 OH)が注目されている。その動機は、優れた業績を残した研究者・技術者の事跡のみならず、人間としての個人の全体像を描き出そうとするところにある。もう一つは技術史上のある事象について、当時の複数関係者から聞き取りをして、歴史をまとめ、真相に迫ることである。その意義は、後世への貴重な指針を与えてくれ、イノベーションやブレイクスルーの型などの分析の事例となる。そして、技術史研究の一次資料となることである。

OHの先進国である米国では、ある程度確立された手法が存在する。今回、米国西海岸で行なわれている OH に関連した活動を調査⁽¹⁾したので、その概要を報告する。

2. スタンフォード大学

2.1 シリコンバレー・OH・プロジェクト

スタンフォード大学が、シリコンバレーの中核にあることからその歴史に焦点を当てて、保存することになり、シリコンベースと名づけられたプロジェクトが1983年にスタートした。シリコンベースは、シリコンバレーの研究者らが作成した原資料を集め、それらの資料を電子フォーマットに転換し、学生や同僚、そして最も重要な将来の学者たちに利用してもらうための組織的なインフラを開発するプロジェクトである。その中核が OH である。インタビューをテキストの形で記録している。これらの拠点はグリーン図書館ピングウイング(図1)である。

シリコンベースは、定評のある学者たちの研究の話を引き出した OH・プロジェクトを展開する機会となり、書き起こしやその他のサービスという形でこれらの研究に価値を付加するとともに、現在および未来の学者やドキュメンタリー制作者にとって有

益なインタビューを集めた恒久的なコレクションを作成している。本プロジェクトでは、OHを計画し、調整するための「オープンソース」モデルを開発することで、学界がデジタル資源を利用して知的資本を創造するための模範を示すことができるようになった。さらに、デジタル環境を利用して、ビデオやオーディオのインタビューと注釈付きの書き起こし、原文書、その他のインタビューとを組み合わせることができる。これは、他の研究者たちが実施したインタビューの保管場所としても機能する。

歴史的資源としての OH は、破棄された文書とともに不明となった事実の一部を保存することができる。シリコンバレーの歴史は、企業が記録を処分し、データファイルが破棄され、シリコンバレーのパイオニアたちが引退することで、毎日失われている。OH は、原記録の破棄によって生じた隙間のいくつかを埋めることができる。

また、OH は文書記録を補うことができる。歴史家が公式なあるいは組織としての歴史を執筆するとき参照する唯一の情報源は、印刷された文書である。しかし、シリコンバレーの歴史の多くは、記録から離れたところで生まれている。創始期以来、シリコンバレーのビジネスにとって重要だったのは、個人的なネットワークや非公式の集まり、会話などであった。インタビューは、こうしたネットワークを復元するとともに、通常ならば消えてなくなっていたと思われるアイデアや商談、製品開発の重要な瞬間を記録する上で有益なことがある。分析的アプローチよりも解釈的アプローチには欠かせない要素である。

さらに、シリコンバレーについて最も興味深いのは、その文化や社会規範に関する問題である。これらは、そもそも成文化されていない。せいぜい間接的な手がかりを残しているだけである。価値や姿勢、

動機、そして企業および地域の文化に関する直接的な情報を集める上で、インタビューが唯一の方法となることが多い。



図1 グリーン図書館、ピングウイング

書き起こしは有益な一次的情報資源となる。キーワードによるビデオサーチや検索ツール、あるいはテキストによる検索では、それぞれの検索を行う際に書き起こしをベースにするであろう。したがって、シリコンバレー・OH・プロジェクトでは、インタビューの書き起こしや編集、目録作成、出版の標準的なワークフローを開発することを主な特長としている。このプロセスには費用がかかる(OHの専門家はインタビューテープ1時間あたりを書き起こすのに100ドルかかるの見積もっている)ため、スピーチ認識ソフトウェアを試し、書き起こしプロセスの一部を自動化する上でどのような可能性があるかを確認していこうと考えている。

2.2 シリコン・ジェネシス

シリコン・ジェネシスとは、シリコンの起源と言った意味で、シリコンバレー出身の技術者ロブ・ウォーカーがその誕生の歴史を記録しようと始めたプロジェクトで、スタンフォード大学が協力している。ここでは主にインタビュービデオを記録している。現在までのインタビュー実施対象者は40名以上に及ぶ。

シリコン・ジェネシスの提供するサービスは2種類あり、一つはVHSビデオとして、もう一つは、RealMediaを用いたファイルとしてビデオ画像を流している。

上記二つのプロジェクトで特徴的なのは、

いずれも学芸員の Henry E. Lowood 博士が中心である。

ヒアリングを実施する者と、編集者は別である。

2.3 SULAIR(Stanford University Libraries & Information Resources)

スタンフォード大学のグリーン図書館では、SULAIR と称する収集を行なっている。文芸作家や、文化にかかわるものが多い中で、科学技術史収集も行なわれ、そこでは、OHも取り上げられている。なお、グリーン図書館には約13名の学芸員が働いている。

3. パロアルト研究センター (PARC)

PARCの情報科学研究室長であるマーク・ステフィックを訪ねた。同氏はデジタル著作権の研究に基づいてデジタル作品のネット配信に道を拓いた優れた研究者であるばかりでなく、イノベーションについて多面的な研究を行っており、特に、最近の著書「ブレイクスルー」⁽²⁾では、インタビューを中心にOH型のイノベーション分析を進めている。

彼の妻バーバラも執筆に参加している。彼女はトランスパーソナル心理学者として、深い意味を探り出すコツを心得ている。彼女は物事がはっきりするまで、糸をたぐり寄せ続ける習慣が身についている。形をなしつつある結論に信憑性があるかどうかを試す試金石となっている。彼女はこの本のために自身のインタビューを始め、マークが見逃していたテーマをはっきりさせてくれた。おそらくマークは、それがあまりに身近なテーマだったために、それらを見逃していたのだろう。

4. おわりに

本調査は、平成17年度科学研究費補助金特定領域研究「日本の技術革新 - 経験蓄積と知識基盤化 -」の計画研究の一つである「オーラルヒストリーによる戦後技術の調査研究 - 電気技術について -」の支援にて行なわれた。今後は、この調査結果を受けて、OHに関する知見を蓄積し、わが国のイノベーションを記録し、現在別の科研費を得て構築中の「卓越技術データベース」の充実に貢献させてゆきたい。

文献

- 1) 電気学会研究会資料「米国西海岸におけるオーラルヒストリー調査報告」、2006年、HEE06-11
- 2) ステフィック、ステフィック「ブレイクスルー」オーム社、2006